

2022年度 学校評価総括表 伊丹市立荻野小学校

教育目標		笑顔あふれ 明日も行きたい学校 ～かしこく あたたくく たくましく 自立して生きぬく児童の育成～						
重点目標		○支持的風土の学級づくり ○学習指導の充実(確かな学力の向上) ○規範意識の高揚と生活習慣 ○体力の向上 ○防災・安全教育の徹底 ○開かれた学校づくりの推進						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。</li> <li>・自ら考え、伝え合う力を育む。</li> <li>・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字・計算の小テストを単元ごとに繰り返し実施する。</li> <li>・学年に応じた復習プリント(計算・文章題・国語の読み取り問題 など)を取り入れ、継続的に学習する。</li> <li>・児童の実態を把握し、学年ごとに基礎学力の定着を目的とした補充を行う。</li> <li>・じっくり棚を利用し、復習や自主学習に取り組む。</li> <li>・授業の中のめあてを明確にするとともに、児童が振り返る時間を設定する。</li> <li>・ICT機器を活用し、工夫した授業づくりに取り組む。</li> <li>・校内研修としてすべての教員が年一回以上授業を公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字・計算の小テストの正答率を80%以上にする。</li> <li>・全ての教科において、積極的に交流活動を取り入れていく。</li> <li>・学校全体として授業力向上に取り組んでいく。(すべての教員が年一回以上の授業公開)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防にかかる制約が多い中、工夫して授業研究に取り組むことができた。</li> <li>・基礎基本の定着に向け、反復練習を行ったり、様々な形式の問題に取り組みせたりすることができた。</li> <li>・じっくり棚を利用し、高学年は自主学習に取り組んだり、低学年は教師が復習場面で活用したりすることができた。</li> <li>・単元の中での1時間のめあてが明確になり、児童にとってわかりやすい授業をおこなうことができた。</li> <li>・授業では教員が意識し、交流活動を取り入れることができた。</li> <li>・ICT機器やデジタル教材を活用し、工夫した授業づくりができた。</li> <li>・授業公開による授業力向上に、学校全体では十分にとりくめなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き授業中のめあてを明確にし、わかりやすい授業づくりに取り組んでいく。</li> <li>・ICT機器やシステムを積極的に利用し、工夫した授業づくりの研修や実践を行っていく。</li> <li>・授業公開の時期を設定するなど、計画的に授業研究を行っていく。</li> </ul>	<p>達成目標に対し、成果が見られた。引き続き、ICT機器の活用を進めるとともに、児童が意欲的に取り組む授業づくりに取り組んでいただきたい。今後も積極的な授業研究や授業公開を行ってほしい。</p>
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書の時間を設けたり、子どもが意欲的に読書に親しむ環境を整えたりすることによって、読書量を増やす。</li> <li>・PTA・地域の方々の読書ボランティアを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校一斉の朝読書の時間を週一回設ける。</li> <li>・教員も児童と一緒に読書する。</li> <li>・読書ボランティアの方を増やすために、学校だよりや学級懇談会などで呼びかける。</li> <li>・図書で借りた本を持ち帰らせる。</li> <li>・保護者への啓発。(家庭学習の際に読書を行い、保護者から必ずサインをもらう)</li> <li>・発達段階に合わせた読書指導をする。(図書だより・本の紹介・読み聞かせ・読書カード・読書カレンダー・学級文庫の充実など)</li> <li>・本を読みやすい環境を整え、めあてを持たせて、読書できるように指導する。</li> <li>・図書委員会の活動を活性化する。(図書委員会からおすすめのほんの紹介を掲示。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおいて、「本を読んでいる(週3回以上)」を80%以上にする。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科を中心に、読書にひらく学習を設定し、児童が図書に触れる機会をつくることができた。</li> <li>・読書ボランティアの方の読み聞かせにより、子どもが新たな本に触れる機会をつくっていただいた。</li> <li>・教員も一緒に読書したり、図書を持ち帰らせる声かけをしたりできた。</li> <li>・図書委員の活動(本の紹介・読書ミッションゲーム)が工夫して行われており、図書室へ行ったり、本を開いたりする児童が増えた。</li> <li>・教員による読み聞かせを増やすなど工夫し、読書時間を増やすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果のあった活動は継続して行っていく。(読み聞かせ、図書委員の活動など)</li> <li>・保護者、地域への啓発からスタートする必要がある。そのため、校内の活動に加え地域の方々へ支援を仰ぐなどの方法を考えていく。</li> <li>・読書ボランティアの維持も含め、地域人材の掘りおこし、地域への啓発を行っていく。</li> <li>・教員による他クラスでの読み聞かせを行うなど工夫し、教員・児童ともに意識を高めていく。</li> </ul>	<p>家庭環境が要因の一つであると考えられる。家庭の協力も必要であるが、家庭によっては難しい。読書量の差は、中学校以降での読解力や成績の差に繋がる。小さいときからの読み聞かせなどが重要。学校で気軽に読書できるスペースをつくるなど、読書環境整備をしてはどうか。ふれあいタイムでの高学年児童による読み聞かせや、幼、保の職員による小学生への読み聞かせなども本に親しむ機会になるのではないかな。</p>
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を工夫し、学習意欲を向上させる。</li> <li>・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の場の工夫をした授業づくりに取り組む。</li> <li>・テーマを与えたり、しっかり取り組めた児童を評価したり紹介したりし、学年の発達段階に応じた自主学習の方法を、身につけさせる。</li> <li>・家庭学習に対して保護者への呼びかけを積極的にを行う。</li> <li>・家庭学習の目標時間に合う課題を提示する。</li> <li>・高学年では、教科担任制の運用により、統一した指導や個々の特徴を伸ばせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習形態・ワークシート・学習手順・発問・板書・ICT機器の活用など、学習意欲の向上を目的とした工夫を取り入れる。</li> <li>・家庭学習の目標時間(10分×学年+20分)を達成させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教職員が学習の場を工夫した授業づくりを意識することができた。</li> <li>・家庭学習の手引きをリニューアルし、見やすく活用しやすいものにする事ができた。</li> <li>・家庭学習の目標時間に合わせて、各学年適切に課題を提示することができた。</li> <li>・習熟度別や少人数など、児童に応じた学習形態を模索していきたい。</li> <li>・児童が積極的に学習に取り組める学習環境や教材を整えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の場の工夫に関する研究を進め、どの子も意欲をもてる授業をつくっていく。</li> <li>・家庭学習の手引きを配布して終わりだけでなく、個人懇談などの機会に活用方法を啓発していく。</li> <li>・学年の担当が変わっても、課題を引き継ぐなど適切な学習課題を提示できるようにする。</li> <li>・家庭学習の取り組みについて目標を保護者と共有するため、年度初めに説明したり、学年通信で啓発したりし、協力を仰いでいく。</li> </ul>	<p>家庭学習の手引きをどのように保護者と共有していくかが大切。少人数授業や習熟度別授業など、今後も児童に応じた授業形態を工夫して行っていただきたい。</p>

<p>特別支援の推進と充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制の確立</li> <li>・個別の指導計画・個別の教育支援計画の活用</li> <li>・ともに認め合い、支え合う学級・学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回の校内委員会や必要に応じてケース会議・具体的な支援方法を話し合う場を設け、個に応じた支援体制・方法を実施していく。</li> <li>・低学年で、ひらがな・カタカナ・計算の確認テストを行い、実態を丁寧に把握し、担任と連携しながら支援に活かす。</li> <li>・個人データ(スズキ校務)、サポートファイル、個別の指導計画を活用し、個に応じた支援につなげる。</li> <li>・児童理解に努め、どの児童も安心して生活できるクラス作りに取り組む。</li> <li>・すべての教職員が、インクルーシブ教育や授業のユニバーサルデザイン化について理解を深める研修を学期に1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにおいて「効果的に機能している」「意識しながら授業・学級・学校作りを進めた」の項目で回答した割合を80%以上にする。</li> <li>・児童アンケートにおいて「声かけや手助け」の項目で回答した割合を80%以上にする。</li> <li>・個別の指導計画を年2回見直し、評価を行う。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制が効果的に機能し、個に応じた支援ができた。</li> <li>・生活指導部会や関係機関と連携して取り組むことができた。</li> <li>・児童理解に努め、どの児童も安心して生活できるクラス作り、授業作りに取り組むことができた。</li> <li>・サポートファイル、個別の指導計画を活用し、職員の共通理解と個に応じた支援につなげることができた。</li> <li>・共に認め合い、支え合う学級作りに取り組んだ結果、児童・保護者アンケートの結果が80%を上回った。</li> <li>・ひろがり通信を月1回程度のペースで発行し、ひろがりの児童への理解を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の作成、引き継ぎの仕方を校内で共通理解しておく。</li> <li>・引き続き、ひろがりやまなびでの様子をクラスで伝えたり、学校だよりなどで発信していく。</li> <li>・研修会や巡回相談等で学んだことを、日頃の支援に生かしていく。</li> </ul>	<p>引き続き、一人ひとりの子どもを大切に、認め合い支え合う学校づくりに取り組んでいただきたい。</p>
-------------------	--	---	--	----------	---	--	--

豊かな心・健やかな体	「命の大切さ」「相手を思いやる心」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の教育」を推進する。</li> <li>・自尊心を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が児童ひとりひとりのがんばったところやよいところを見つけ、声かけを行う。</li> <li>・互いを思いやる素地を養うために、児童が認め合う機会を設ける。</li> <li>・心の匠や外部人材を積極的に招聘し、心の教育を推進する。</li> <li>・人権週間や人権参観を行い、保護者に啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「自分によいところがある」を85%以上にする。</li> <li>・児童アンケートで「自分や友だちを大切にしている」を90%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解に基づいた教職員の積極的な声かけにより、児童の自尊心が高まった結果が表れつつある。</li> <li>・また、道徳の教科化も児童の心の安定につながっていると考える。</li> <li>・一方で、児童だけでなく保護者の他者意識の薄さがきにかかっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはしのもちかた、着替え方、傘のたたみかた雨具の片付け方など、就学前に身につけておいてほしい事柄について、PTAと協働で学習会を開催できないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊心が高まっているのは大変よい。引き続き、丁寧な児童理解や積極的な声かけを行っていただきたい。</li> </ul>
	いじめや不登校、問題行動に迅速に対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を全職員で共有し連携して、継続性・系統性のある指導をおこなう。</li> <li>・問題行動のある児童に対して、生活・行動・学習面に関わる支援をおこなう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する児童について、職員全体で情報を共有し、学校全体でいじめや不登校の未然防止に努める。</li> <li>・いじめのアンケートを3回実施し、児童の悩みに敏速に対応する。</li> <li>・関係機関と積極的に情報を共有する。</li> <li>・性暴力や情報モラル等、今日的課題について、職員・児童共に研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「学習や遊びでだれとでもなかよくしようとしていますか」の肯定的回答を90%以上にする。</li> <li>・保護者アンケート「生活指導に関するもの」の肯定的回答を90%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受容的な学級づくり、いじめアンケートのていねいな聴き取りなどが、児童の安定感につながっている。児童の安心感を保障するためのていねいな関わりを継続するとともに、ちいきでの過ごし方や不登校などの課題については、今後も真摯に取り組む続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おぎっこママ(子ども食堂)や3年生の街あるきなど児童の学習や生活は、地域に支えられてこそだということを児童、保護者ともに啓発し続けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校については、家庭環境が要因であることが多いと考えられるが、学校の重要課題として、引き続き、地域や関係機関と連携して取り組んでいただきたい。</li> </ul>
	健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と協力して健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業明け1週間生活リズムチェック表をつけて、学校の生活リズムに早くなるようにする。</li> <li>・規則正しい生活ができるようにポスターや保健だよりで呼びかける。</li> <li>・2学期の生活リズムを回収し、現状をまとめ問題点を把握し、指導にあたる。</li> <li>・新しい生活様式に合わせた、保健指導を行う。</li> <li>・委員会の呼びかけを通して、保健指導内容を教員や児童に周知する。</li> <li>・朝の健康観察を継続して、自身の健康に留意させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズム表提出率90%をめざす。</li> <li>・児童アンケート「早寝・早起き・朝ご飯」において、80%を超える。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態と比べて生活リズムチェック表の目標が高かった。</li> <li>・生活リズムチェック表に取り組むことで、自分を振り返ることができた児童がいた。</li> <li>・「早寝、早起き、朝ご飯」について、高学年75.8%に対し保護者91.6%となっている。保護者が子の実態をつかみきれていないのでは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出できなかった児童へは、背景を考えて個別対応を考える。</li> <li>・保護者には、手紙などで啓発していく。</li> <li>・児童には、困ったことなどがあれば聴き取り、教師が気にかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムチェック表を活用し、来年度、睡眠について重点的に取り組まれるのは大変よい。引き続き児童や保護者への啓発に努めていただきたい。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力づくり</li> <li>・スポーツを楽しむ心を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式に合わせて、外遊びを推奨していく。</li> <li>・体育の授業を通して、身体を動かす楽しさを味わわせる。</li> <li>・ワークシートや活動例集の活用、自主研修を実施し、指導力向上に努める。</li> <li>・今年度新しい荻野っこ体操を作成したので、定着をはかるために動画を作成し、周知する。</li> <li>・荻野スポーツの日の取り組みを通して、身体を動かす機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果で「運動することが好き」の割合を85%以上にする。(昨年度の高学年が80.2%と低いので、高学年の割合を特にあげていきたい。)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策もあり(マスク着用)運動量を確保しづらかった。</li> <li>・低学年は目標を達成しているが、高学年は目標に達していないので、引き続き声かけや働きかけが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな遊びなどを取り入れる。</li> <li>・高学年は、学習内容が難しくなるので、苦手意識を持ってしまう児童がいるのが原因ではないか。自主研修の内容を工夫し、子どもが運動に取り組みやすいようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力＝学力」である。おぎトレの実施で体幹を鍛えたり、ドッジボール大会など定期的に体を動かす機会を設定したりして、体力向上に取り組んでいただきたい。体を使いながら学力も向上させる取組も行えるとよい。</li> </ul>

開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に学校情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりを年間12回以上、毎月発行し、地域にも配布する。</li> <li>学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。</li> <li>学校行事の案内を地域に配布する。</li> <li>学校の生活全体の様子を個人情報に留意しながらHPや学校だよりで積極的に公開する。</li> <li>HPのおしらせ欄(新規)で、災害時の対応や行事中止等の連絡を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりを年間12回以上、毎月発行する。</li> <li>学校のホームページを月3回以上更新する。</li> <li>学校行事の案内を配布する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において制限がある中で、一定の評価を得ることができた。</li> <li>コロナ禍で行事が制限される中でも、HPを公開し、学校情報の発信ができた。</li> <li>「HPについては、こまめな更新が閲覧回数増加につながる。引き続き学校の情報を伝えていただきたい。」という意見があったので、これを継続していきたい。</li> <li>コロナ禍で制限されている公開を増やしていくなど工夫したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン参観授業は、環境的に顔出しできない児童もいるので、時間を制限したり学年毎に日程をずらした参観等を行っていく。</li> <li>定期的な学校公開を継続していく。</li> <li>地域へのお便りも継続。</li> </ul>	来年度も定期的な授業参観や学校公開、HPによる情報発信を行っていただきたい。学校だよりを活用して、学校の考え方の発信や保護者への啓発を行っていくとよい。
	安全安心な学校作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故・犯罪・災害などに対する対処法や回避法に関する教育を行い、危機対応能力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の避難訓練・年2回の集団下校を行い、訓練に合わせて自分の身の守り方についての指導を行う。</li> <li>教職員対象に研修で不審者対応訓練及び研修を行う。</li> <li>3・4年生で行う自転車教室や保健、特別活動の時間を利用して啓発冊子・DVD等を使って自転車の乗り方の指導を行う。</li> <li>交通安全や災害について、家族で話し合えるようプリントを配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートにおいて「自転車に乗るときに交通ルールを守っている」「避難訓練のとき、きまりを守って自分で避難できる」を回答する割合を90%以上にする。</li> <li>保護者アンケート「家庭で、緊急時の避難や不審者に出会った時の対応について子どもと話し合っている」を90%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート、保護者アンケートともに90%以上を達成することができた。</li> <li>真剣に訓練に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、職員全体で子ども達に声をかけていく。(繰り返し指導を行う)</li> </ul>	今後も、定期的な避難訓練や職員研修を行い、安全な学校づくりを行っていただきたい。
	楽しい学校生活に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>すすんであいさつをし、廊下を正しく歩く。</li> <li>学校行事等に進んで参加する。</li> <li>地域行事への参加</li> <li>異学年同士が交流し合う場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会(委員会)を中心に、学校全体であいさつや廊下の歩き方を呼びかける。</li> <li>はじめましてタイム・ふれあい週間・ふれあいタイムを年1回実施し、異学年の交流を行う。</li> <li>廊下の右側を歩くことを啓発する。</li> <li>なわとび大会、盆踊り、グランドゴルフ、地区運動会などへの積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで「あいさつができてい」を85%以上にする。</li> <li>児童アンケートで「廊下を正しく歩いているか」を85%以上にする。</li> <li>児童アンケートで「学校行事にすすんで参加できている」を85%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで、廊下を歩くが85%以上達成できたが、教職員は実感が薄い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導と連携して、職員全体で指導していく。</li> <li>時間を守らせる。</li> <li>委員会中心で啓発ビデオを作り、定期的に放送する。(廊下の歩き方)</li> </ul>	地域であいさつができる児童も増えている。引き続き、職員で指導内容を共有し、取り組んでいただきたい。

### 学校関係者評価総括

荻野小学校の教育活動は概ね良好である。今後も、児童自身がやりたいと思える課題、粘り強く取り組める活動、やりたいことを実現できる教育を進めていってほしい。また、保幼小中の連携、地域や保護者とのつながりを大切に、家庭や地域が学校に目を向け、学校とコミュニケーションを密にできる取組を工夫するとともに、いろいろな視点から児童の自立に向けた教育活動を行ってきたい。そして、荻野っ子らしく、元気に遊び、のびのびと育つ安心安全な学校づくり、つながり認め合える関係づくり、将来の自立に向けた学力・体力の向上を推進していってほしい。

### 次年度に向けた重点的な改善点

- ① 家庭・地域と連携し、基本的な生活習慣・学習習慣・読書習慣を確立する。 ② 体力の向上をさらに進める

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った